

## 地球儀

(『花藻』既刊誌より) 020430

野仏は片手拝みで往く遍路  
思い出をこぼさぬよ様に牡丹剪る  
正論をいつも吐く妻春炬燵  
長閑しやきつちりと折る紙人形  
薫風ゆつくりまわる大風車  
五月の天麒麟の首の長きこと  
粽解く昔話を聞くように  
栗の花少年恋を知り初むる  
目標は次の新樹よ一輪車  
麦秋や宙をひた蹴る赤ん坊  
全天の星を華としピアガーデン  
白い靴履いて若葉にあいに行く  
風は自在に散るゆく花は人臭き  
空の青踏んでシートの花見客  
沖といい遠いといい春霞  
子育て期古り地球儀に春埃  
花冷えという美しき一語かな  
明日よりも今日が大事と花は葉に  
登り来て視野に展けし花・花・花